

## 第1回南城市地域公共交通会議 議事要旨

日時：平成25年11月12日(火) 14:00～16:00

場所：南城市役所2F(玉城環境改善センター：ホール)

### < 出席者 >

団体名等	氏名	備考
南城市	與那嶺 紘也	委員長
琉球大学工学部環境建設工学科	神谷 大介	副委員長
沖縄総合事務局 運輸部 企画室	小野 協子	
沖縄総合事務局 運輸部 陸上交通課	古堅 宗安	
沖縄県 企画部 交通政策課	嘉数 登	代理
沖縄総合事務局 (南部国道事務所)	照屋 悟	
沖縄県 (南部土木事務所)	佐久本 嗣純	代理
与那原警察署 交通課	平 晃	
一般社団法人 沖縄県ハイヤー・タクシー協会	津波古 修	
私鉄沖縄県労働組合連合会	當間 正秀	
沖縄バス株式会社	親川 武司	
株式会社琉球バス交通	真栄城 朝雄	
東陽バス株式会社	普久原 朝啓	
大里タクシー合名会社	知念 武	
合名会社 山一交通	山田 隆一	
南城市老人クラブ連合会	金城 里美	代理
南城市民生委員児童委員連合会	仲村 裕	
南城市区長会	新城 辰夫	
南城市商工会	宮城 斉	代理

< 議 事 要 旨 >

平成 24 年度の調査結果の報告については、特に質疑なし

平成 25 年度のデマンドバス実証運行計画について

発言者	発言
委員	運行時間帯について、21 時まででは必要ないのではないか。会員登録について、カードを発行する予定があるか。 対象者でも昼から酔って迷惑をかけるお客もいる。そういった場合のための配慮はするのか。
事務局	市内にはナイトスポットにもなるカフェ・飲食店があるので、今後の南城市の観光振興の観点から、夜 9 時頃までの運行を検討している。 会員証などの発行は考えていない。 審査等は考えていない。まずは案内の徹底と利用者の方に周知したい。
委員	利用者の移動がバスの路線と重複する場合はどうなるのか。
事務局	路線バスと連携を考えているので、基本的に路線が走っていれば、バス停までと考えている。ただ、便数が少ないところへ運ぶのは非効率なので、バスロケーションシステム等で運行状況をみながら案内する。
委員	案内する側は、各路線の通過時刻表を把握して、予約の段階で一番近いバス停なら送迎可能と徹底した案内がないと、送迎範囲が拡大して際限がなく利用者の希望通りになる。
委員	タクシーへの影響の考え方やどう対応していくのか。実証実験の費用はどれぐらいかかるのか。
事務局	タクシー事業者への影響は、現段階では予測が困難。実証実験のなかで調査をしていく予定。 今年度 4000 万円ほどかかる見通しである。これには、システム構築費用、導入費用、運転手などの人件費、車両リース等が含まれる。
委員	P D C A にもとづいた検証もしてほしい。4000 万の費用なら、既存のバスやタクシーを使っただけの方策があるのではないか。

発言者	発言
委員	<p>南城市が目的としていることは、年配の方に積極的に外出してほしいということや、送迎をする家族の負担を軽減したいということである。そのために一つの手段としてデマンドバスを運行している。</p> <p>現状として公共交通の利用は、市民の需要はあるけど使えておらず、実験によって、潜在的なニーズを顕在化したり需要を喚起したりすることになる。総合的には、公共交通機関等にはプラスになると考えられる。朝の運行時間も検討してはどうか。病院の受付開始時間にあわせて、夜を30分短くして朝30分の早くしても良いのではないかな。</p>
事務局	<p>このデマンド交通は、外出支援によって生きがいをつくってほしいという大きな目的がある。</p> <p>南城市は那覇市にも近く、地域の活力が出てくれば公共交通もたくさん使う可能性がある。</p> <p>運行時間について、季節や時期によって見直していく予定である。</p>
委員	<p>観光客向けには周遊ルートを検討とあるが、具体的には観光客の利用イメージっていうのはどういう感じなのか。</p>
事務局	<p>斎場御嶽の駐車場が閉鎖されており、地域物産館に停めている。周辺には観光施設や飲食店があり、回遊できる仕組みを検討中。</p>
委員	<p>本格運用については、市内の運送事業者を活用したほうがよいのでは。</p>
事務局	<p>他府県の事例で、タクシー会社やバス会社に委託をしている事例が多い。実験の中でタクシー事業者等が運行できそうか検討したい。</p>
委員	<p>四つ折りのチラシはこれで完成か。バスの路線が全くなく、沖縄バスの39番も載っていない。</p>
事務局	<p>観光客向けは、ルートともにチラシも検討中である。</p>
委員	<p>デマンド交通の話を聞いたのはつい最近である。事前に事業者へ聞き取りや話し合いはあったのか。</p>
事務局	<p>聞き取り等していない。意見交換できなかった点は、深くお詫びする。昨年24年度の調査で、既存事業者と連結できるか検討し、今回の実証に踏み切っている。ご了解いただいてご協力をお願いしたい。</p>
委員	<p>路線バス事業者は非常に厳しく、ちょっとした利害関係で、前に進まないということがある。今後、事前に話がほしい。</p>

発言者	発言
委員	<p>デマンドバス以外の方法はないか。宮古島市では高齢者外出支援で、タクシークーポン券を渡している。好評でうまく機能している。</p> <p>既存の公共交通の担い手として頑張っているので事前に話を聞いたかった。他市町村でも同様な会議があるが続かないことが多々ある。県や行政は、その後どうなったのか検証してほしい。</p>
委員	<p>観光客は大きなカバンもってくるので、導入車両が小さくはないか。利用方法について、具体的にはどのように予約するのか。データ収集など実際にどうするのか。</p>
事務局	<p>利用したい方がコールセンターに電話し、オペレーターに利用日時、乗る場所を報告すると、システム側で登録され自動で配車される。</p> <p>乗り合いで行くので時間に遅れないよう、人的ではなくてシステムで行うため、事前登録と事前に予約するという仕組みになっている。</p> <p>南城市は道幅が狭いのでバスではなくジャンボタクシーにした。定員は最大で12名だが、荷物を考慮して10名乗りという配車の仕方です。</p>
委員	<p>経費4000万だと、どこの業者でも引き受けられないのではないか。</p>
事務局	<p>4000万の中には、色々な検討が入っているため経費がかかっている。実施運行になれば削減できるところは全て削減する。ただ、赤字になるようであれば、先ほどのタクシークーポン等も検討する。</p>
委員	<p>既存のタクシー会社もあるので、南城市は大いに利用して、タクシー事業者が入っていけるようにしてほしい。</p>
委員	<p>運用できるように交通事業者との話し合いは継続的にもつほうがよい。採算が合えば民間にお願いし、合わなければ別の形式で交通需要を支援することもできる。実際は、イニシャルコストが占めていて、ランニングコストは半分いかないと考えられるので、最初は行政の方で下地を整えた上で、それから民間業者という形が効率的である。タクシークーポン等が合っていればそういう選択肢もある。</p> <p>介護保険料や医療費を軽減するのは、事業者にとって利益ではなくとも、財政や公共という概念からいうと便益になる。軽減できたなら事業の評価として本当は入れるべき。10-20年後の高齢化社会を考慮し、継続していくかどうか検証していく必要があると考えられる。</p> <p>調査票は、交通弱者の顕在的な問題やニーズを把握し、外出する需要喚起の部分、実験の効果の把握が出せるような項目が必要である。協力できるところは協力する。</p>